

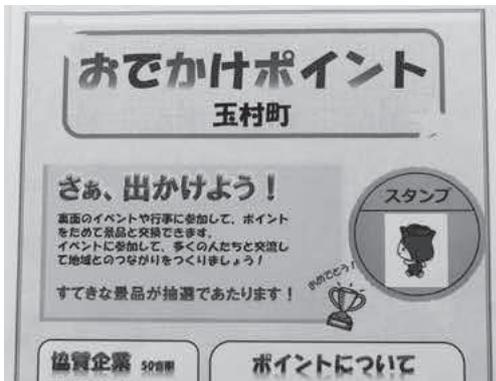
「おでかけポイント制度」 の効果は



町長

ボランティア活動 創出につなげる

石内 國雄



「おでかけポイント制度」のパンフレット

質問

地域通貨やボランティアポイントの検討を行い、「おでかけポイント制度」を導入とあるが、どのような制度か。また、その効果は。

答弁

町長 町や住民活動サポートセンターは、NPO法人等が行う行事等に参加することでポイントを付与し、ポイントに応じて景品と交換できる仕組みを検討している。効果としては、若者から高齢者まで幅広い世代が地域に出ること、地域とのつながりを持つ「きつかけ」になると考えて

いる。効果の検証を行い、継続的なボランティア活動の創出につなげたい。

総合計画に土地利用の見直しを

質問

「第6次総合計画」の策定に着手し、今後10年間の町の姿・将来像を描いていくとある。本町の恵まれた立地条件や交通の利便性を生かし、企業誘致や産業振興、定住促進を図るためには、土地の有効活用と利用価値の向上が重要である。

市街化調整区域の抜本的見直しと、農地や住宅地、商業地等のバランスのとれた確保が必要と考えるが。

答弁

町長 町も土地の有効活用と利用価値の向上が重要と考えており、第6次総合計画の策定に当たっては、町の強みである交通・立地条件を生かした県央の未来都市を創造する計画としたい。

住宅地は現在の市街化区域を

中心に土地利用を促進するとともに、市街化調整区域では大規模指定既存集落制度などでコミュニティの維持を図りたい。商業地については市街化調整区域内での大規模な土地利用は難しい状況となっている。

BRTと「たまりん」の接続は

質問

BRT（バス高速輸送システム）の導入に伴い「たまりん」の路線との関連や新たな交通手段をどう考えているか。

答弁

町長 道の駅玉村宿は「たまりん」の運行本数を増加し、道の駅と交通ターミナルの往復便を新規に設ける意向を県に伝えている。

交通ターミナルについては、「たまりん」のほか永井バスや群馬中央バスも乗り入れてもらえるよう各社へ要望しており、ターミナルを起点として町内の交通ネットワークを再構築する考えである。